



愛宕山頂を本来の「鳴山城の見張り台（展望台）」として復元しては

町長＝土地管理者から展望台の提案がなく、その考えはない

問

2023年6月議
会「愛宕山を
展望台」の質問で、

町は「県指定の史跡である」と、地権者の問題と現状を変えることができない」というできない理由であった。

それは「愛宕山は、福島県指定史跡鳴山城跡であり、史跡内の伏採には所有者の同意の他に、史跡の保存に影響を及ぼすため、県文化財保護条例の現状変更申請が必要」とのことでした。

本来、愛宕山山頂は鳴山城の「見張り台」であった。山城本来の「見張り台」の役割をなしていた当時の姿が現状であると考ええる。長い間、人の手が加えられなかったことで周囲の木々が大きくなり、周囲が見渡せなくなると現在の姿は決して現状と言えません。

町の現状の認識は、

町長

愛宕山の山頂には、平安

時代より愛宕石神社の祀られており、鳴山城が設けられたと言われています。南北朝時代には、山城として天守の役割を果たしていたとの文献もありません。

山頂部は、その地形から急傾斜がよく、周辺の影響などからの騒音を受け取っていたとの文献もありません。また、鳴山城から周辺を見渡す展望台については山頂部から視線上た伸びる中腰部に建てたと思われると考えられていたと考えられています。このように愛宕山山頂は歴史と、様々な役割を果たしてきたと考えられますので、議員の「見張り台」に置きかえた認識は持っておりません。

問

当時の「展望台」として観光の目玉になれば「のぞき台」も変わりません。町長が時々その山頂に登りた

くなるような魅力的な場所、汗を流し、やつと登った山頂で見える風景でそれまでの疲れが吹き飛ぶような、町民に愛される山頂にできればと考えます。

愛宕山山頂を本来の「鳴山城の見張り台（展望台）」として復元しては、

町長

愛宕山山頂には、時代に

より様々な役割があったと思われるですが、見張り台としての役割を必ずしも果たす文獻は残っていないようです。

現在の愛宕山は、鳴山城跡として福島県指定の史跡であり、「周知の埋蔵文化財（埋蔵地）」でもあり、現状を変更するには福島県の許可や調査が必要となります。

また、土地が48名の共有地であり、現状を変更するには地権者の同意が必要にならざるを得ない。また、土地管理者から展望台を整備する提案を受けており、また、私自身が「見張り台」として復元する考えはありません。

※町が引出した文獻的史跡の見取り図。周辺を見渡す展望台として「城の砦」の遺構を条件としていた。また、私自身が「見張り台」として復元する考えは、町は認めません。



鳴山城の天守、愛宕山（福島県観光開発協会ホームページより）

「その他質問」といくらスキーム場の民間主導の方向性に関係なく「町の指定管理」として継続する考えは、栗生天への県道黒磯田島線の狭い区間の道路改良の実現は